

● 出席者数 93名

神戸大学	他大学	他機関	その他
61	11	4	17

1. 性別、職位、所属

①性別

女性	男性	その他	記載なし
31	13	0	3

② 職位

教員	職員	研究員	大学院生	学部生	その他
19	2	1	6	2	17

③ 所属

神戸大学	その他	記載なし
23	22	2

2. キックオフシンポジウムに関する情報をどこで知りましたか？

神戸大学 HP	男女共同参画 推進室 HP	ポスター	メール	その他
11	9	5	10	25

具体的に

- ・友人から
- ・学内の電子掲示板
- ・教員から聞いた
- ・教員会議
- ・オリエンテーション
- ・役員懇談会

3. キックオフシンポジウムの内容はいかがでしたか？

(1) 講演の部

大変有意義であつた	有意義であつた	あまり有意義でなかつた	その他
22	22	0	3

具体的に

- ・合唱も非常に良かった。
- ・参加していなかったので「その他」にしました。

(2) パネルディスカッションの部

大変有意義であつた	有意義であつた	あまり有意義でなかつた	その他
27	13	0	7

具体的に

- ・質問が活発で良かった。アレキサンダー先生の司会も、リラックスしていて良かった。
- ・パネラーの構成（ジェンダー専門家を含めていないアプローチ）
- ・コーディネーターの力量

4. ユネスコチェアプログラムの内容について、どのような点に関心をもたれましたか。

- キックオフシンポジウムの内容としてとてもよかった。災害は、神戸、福島、日本だけでなく、世界中で起こっていること。多くの人々が減災に取り組んでいること。手を取り合って、減災に取り組みたいと思いました。色々な視点・分野の先生から、お話が聞けて良かったです。
- リスク・コミュニケーションや、リスク・マネジメントには、ジェンダーの視点が必要であるということ。国際的・学際的なネットワークが、不可欠であること。
- DDR-S に女性の視点がいかに欠けていたか。老人、子供、etc.の弱者の問題はある程度 cover すべきでは。
- 日本だけでなくアジアを拠点としている点。教育の中で行うワークショップでは、国籍や年齢の異なる人々と減災について考えることが出来る点。
- 包括的なガイドラインが作成されることを期待します。
- 異なる分野が協同して一つの課題に取り組むことで様々な知見につながると感じた。
- 福井武夫氏のお話で、世界の中では女性が土地を持ってないところもあるということにすごく関心を持ちました。知られていない男女の差を知って女性の災害時の死亡率減少につなげられていればと思いました。
- 災害についてジェンダーや脆弱性という観点から考えるというのが面白いと思いました。男女の災害における死者数の差は初めて見るデータでとても興味深かったです。防災教育の意識啓発は色々な機関や事業が取り組んでいるように思うので、どのように差をつけて、どのように伝えていくのか知って、私自身も学校の神戸プロジェクトで研究を行っていく中で参考にしたいと思いました。
- パネルディスカッションで沢山のお話を聞くことが出来たことです。看護師の方は子供のために募金を行ったり、避難所の方の心のケアをされていることが分かりました。防災や減災のために様々な新しい活動を行っていることがわかりました。
- 男性より女性の方がなくなった方が多く女性の脆弱性が高いことを知りました。女性の役割やニーズを把握したうえで男女がバランスの取れた関係になるように、教育・意識啓発を行うといった活動が重要であるとわかりました。皆が安心して暮らせる環境を作るために学生に出来ることは何か、またどうすれば女性の **resilience** が高くなるのか更に知りたいと思い興味を持ちました。
- 初めて死者の数は男性よりも女性の方が多いことを知って、福井さんのお話にもあったように、避難所では男性が中心にまとめていたため、女性の生活必需品が足りなかったことや、海外では土地の所有権が女性にはなく、男性が死んでしまったらその土地の所有権も同時になくなってしまうという事実を知り、女性と男性で差がある事を知りました。とても興味を持つことが出来ました。
- 災害において女性は弱い立場であると言うことが死亡率の男女比較で分かったこと。
- ジェンダーと災害だけに注目するのではなく、多方面から考えることが大切である。
- 防災とジェンダーを関連づけて考えることが面白いと思った。震災での死者数が女性>男性⇒男性は仕事に行くから女性だけ残る避難所に女性に必要なものがない⇒防災の面でジェンダー問題を考える。DRR education NGO とのいい関係を作るべき。移動型のリハビリテーション⇒本当に大切なのは発言。ジェンダーは数学ではあわせない。

- ユネスコチェアについて知識がなかったので勉強になりました。
- ジェンダーと減災について具体的に考えることができるかどうか。
- 他大学、団体とのコラボレーションを行うことで日本がこれからどのようによりよく変わっていきけるのか、非常に期待しています。
- 自然災害の多い日本において、死者数など被災の規模は考えますが、災害時の男女格差（死亡率の違い、シェルターでの女性被害、土地所有権の有無）について考える機会はありませんでした。これらを考えることが減災対策となり得るコンパワーメントにつながるという視点が自分にとってかなり新しいもので興味深かったです。
- Involving relatively different spheres of humanity issues and connecting them under one theme of DRR.
- Gender equality and Vulnerability for the Disaster Risk Reduction and mental health on psychosocial issues in developing countries.
- Voice the mind of women
- 大阪大学でも人間科学研究科が中心となって今年ユネスコチェアに申請をしました。“Global Health and Education”というテーマです。今日は大変勉強になりました。もしも無事に申請が通ったら将来的に UNESCO Chair のもと一緒に何か阪神間でコラボ（イベントやシンポジウム）が出来たら素敵だなと思いました。今後もよろしくお願ひ申し上げます。小笠原理恵
- 脆弱性に配慮した減災対策。普段は女性・ジェンダー以外の脆弱性を考えているため、この分野の情報を得たいと思った。

5. ユネスコチェアで取り上げてほしい活動等がありましたらご自由にお書きください。

- 是非、本校生徒（中1～高3）も関わられるような活動があれば、お声をかけてほしいと思います。また私自身も、阪神淡路大震災の被災者として何か出来ないか、更に学びたいと思うようになりました。是非、生徒・教師として関わりたい、被災者として関わることを取りあげて頂きたいと思いました。
- 障害のある子どもを育てている母親の、災害時での心配など。災害後のNPOの働き。
- 中高生にももっと発信してほしい。
- 今日のような活動や講演を中高生に向けて行っていただきたいです。私が実際に被災地へ赴いたときに、媒体を通して知る情報と実際に目に映る情報では全く印象が異なりました。そのときに感じたことは未然に対策をしていれば被害（ソフト、ハードともに）が減ることも多くあると思います。しかし、減災をするためには一人ひとりの危機感と知識が必要です。メディア意外にも被災された方の体験談や研究者の方の講演はとても刺激になります。ぜひ私たちの学校でも講演していただきたいです！
- 経済格差のある国でのジェンダー問題と貧困の関連性。もし関連があった場合の経済格差による違い。
- 水資源の問題で、水が豊富にある国、不足している国など様々な国で問題になっているので、是非その点での改善策などがあるといいと思った。また、災害が起こったときに避難が困難な人たちのために避難しやすい道や、何分で避難できるかななどをマップに記載してその人たちを救う「逃げ地図」プロジェクトをやってみてほしい。
- 女性の教育、社会進出の促進。
- 幅広く学生を巻き込んだ活動を行っていただきたい。また、メディアの方々と上手く関わって発信

してください。

- Involvement of youth in organizing projects on better understanding the aims om this UNESCO Chair project.
- Gender equality among male, female and androgyne people also necessary. I am from Bangladesh. In my country there are many androgyne people who face many vulnerability because of discrimination, criticism by their own families and also by their society.
-

6. 本日のシンポジウムに対する感想やご意見等、ご自由にご記入ください。

- 世界の色々な所で災害にあっていることを知り、自分にできることをやってみたいと思いました。
- 大変興味深いものでした。もっと多くの学生、院生に参加してほしいと思いました。
- パネリストの参加者を減らし、1-2の事例紹介を詳しくしてはどうか。もっと課題（問題点）を出したほうが良い。今回のシンポジウム結果を、もっと広報すべき。全体の雰囲気は、平等・国際の視点が実現され良かった。
- 英語でも通訳があって、内容を知ることが出来てよかった。色々立場の違う人々のそれぞれやっていることなどを知れた。ジェンダーとは女の人だけではなく様々あると分かった。様々な立場の人が集まっているプロジェクトだと分かった。難しいところもあったが面白かった。これから4年でどんな研究が生まれるのかを知りたいと思った。
- 以前附属学校の方で“resilient”とは何かについて考える機会があり、それぞれ意見を出し合ったのですが、今回のシンポジウムでの“resilient”は思っていた意味とは少しギャップがあるのではないかと思います。今日ご講演くださった皆さんが、それぞれの分野で用いられていることややや抽象的なワードが定義づけられ、適切な日本語訳をつけていただけると今日のお話がより理解できると思います。
- ジェンダーと減災対策が関係しているという視点はとても新しく感じられ勉強になった。また、パネルディスカッションも充実しており、楽しむことが出来た。
- UNESCO Chair 設置のご苦勞を知ることが出来ました。
- このような素敵な場所で歌わせていただくことが出来てとても幸せでした。また、沢山の知らないお話を知ることができ、この体験を様々な場面で生かしていきたいと思います。
- 沢山の国の方のお話を聞くことが出来る貴重な機会でもとても興味深かった。
- 色々な国や分野の方のお話を実際に聞くことが出来て良かった。私が知らない新しい活動や災害のための取組がされていると分かって良かった。自身などの災害を体験したことはないけれど身近に感じて聞くことが出来た。日本も難解も地震が起こっているので対策できることもあると思うし、今後近いうちに大地震が起こるといわれているので、体験者に実際に話を聞いたりして自身についてもっと知っていくべきと改めて思いました。
- 貴重なお話をたくさん伺って刺激になりました。「災害」「減災」と短い言葉にまとめられても様々な視点や側面がある事を知りました。私たちの学校は災害について考える機会が多いですが、様々な立場の視点から考えることでより減災に対する自身の考えを広げていきたいです。私たちには私たちにしか出来ないことで少しでも復興や防災、減災に携われるよう歌に思いをのせて届けられるようにします。
- 本日は神戸大学附属中等教育学校コーラス部として「しあわせ運べるように」を歌わせていただ

きました。貴重なお話をたくさん聞くことが出来たので良かったです。

- 新たな知識を得ることができ、すごく良い経験になりました。
- 女性と男性では体のつくりも違うし根本的な考え方（男性的、女性的）なども違うため、女性が出来ることにも限りがある。その中でどこからどこまでをジェンダーの問題として捉えるかのユネスコ内の共通認識についてウェブサイトなどで示してほしい。ユネスコでも多くの問題について取り組んでいるが、教育においてセクシャリティによる問題（特に災害による）についてもっと考える必要があるということに強く共感した。
- 防災とジェンダーという無関係付かないような2つの問題を結びつけて解決しようとしているのがとても面白いと思いました。パネルディスカッションでは国によって災害が起こる頻度や種類が異なるので、それぞれの国によってアプローチの仕方が違うことを実感しました。「災害が起こればその人の人生を考えてしまう」という言葉が心に響きました。
- 企画・運営のエネルギーは大変なものだったと思います。もっと大きな会場で多くの人に参加できたらよかったと思います。
- 温かな感じがするシンポでよかったと思います。
- Human trafficking や sexual assaults についてのお話はとても考えさせられました。
- 貴重なお話が聞けて大変勉強になりました。
- It is a very good initiative for the researchers. I am very grateful to participate this symposium.
- I learnt a new concept about gender.